

## 令和元年度市政懇談会（子育て分野）会議録

- 期 日：11月21日（木）
- 場 所：市役所西有家庁舎
- 参加者：16人

子育てに関わりのある母子保健推進員や保育士、子育て中の保護者などに参加していた  
だき、子育て環境の現状や本市が取り組んでいる施策などについて懇談しました。

以下、主な懇談内容。

### 子どもの発達障害や虐待について

#### 【参加者】

・私は助産師なので子育て全般に関わっているが、南島原市では3回産後ケアの訪問ができる。雲仙市や島原市は2回。密接な関係が築けるため、大変ありがたい。しかし、何か症状がないと受けられないと勘違いされている人もいる。どういう人でも受けられるということを知ってもらいたい。

現在、発達障害とよく言われるが、病的な発達障害の場合はいろいろな支援を受けられるが、グレーゾーンの育てにくい子が虐待を受けていたりする。その部分の子どもをどう救っていくか。仕事で五島に行った際、リストカットや親からのDVを受けている子がいて、高校生なので児童相談所に行っている子ばかりではなかった。そういった場合には、里親制度などの浸透が必要である。南島原市では里親が少ない。そういう子どもを育てていくためには時間とお金がかかるので、手助けできる制度があれば、もっと多くの子どもを救えると思う。親から切り離すことが必要な子どももいる。

・発達障害などの診断を受けた子どもは、いろいろな支援を受けられる。グレーゾーンの子は、親も悩んでいるし苦勞している。自分の子どもは何でできないのかという怒りが子どもに向かう。小さいころから見ている保育園の先生たちと学校との連携が必要。10月に就学時健康診断があり、学校の先生も来られる。そして、入学前の3月に保育園に訪問して、聞き取りをされるが、学校側の受け入れとしてそのときでは遅いと思う。教育委員会と連携をとってほしい。そうするといろいろな支援の手が届くと思う。

#### 【市】

・保育所児童保育要録が変わり、小学校へのスムーズな接続が大きなテーマとなっている。子供の成長記録や子どもが抱えている身体的な問題や家族構成の問題などを学校につなげるよう改訂されている。今後はそういった接続という部分は、スムーズになっていくと考えている。また、虐待などの早期の対応や安全対策のために警察などと連携をとっている。行政だけでは限界があるので、いろいろな機関と連携することでさまざまなケースに対応で

きる体制を構築するなど、連携度は深まってきている。

**【参加者】**

・小さい頃に虐待を受けていた高校生がいて、先日、先生からその子が過呼吸を起こしたりしていると相談を受けた。思春期の大人になりたくないときに何かしらの症状が出てくる。そういう子どもたちをどうやって大人にもっていかという部分をサポートする必要がある。親は解決していると思っているが、子どもには根深く続いている。そういう子どもたちのフォローを地域でやっていけたらと思う。

・南島原の子は虫歯が多い。早くから甘いお菓子を食べさせたりして脳をおかしくしている。親だけの責任ではなく、周りの大人も気をつけなければならない。一概に発達が遅れているということではなく、食べ物とかそういう環境も必要ではないかと感じている。

**【市】**

・最近、よく発達障害と聞くと、以前と比べて特別に多くなっているのか。

**【参加者】**

・発達障害ということで国が把握しているのは小学生で、18人に1人くらいだったと記憶している。保育園から小学生にかけては何倍もいると考えられる。みんなを同じような環境で育てても、いいように育つわけではない。怒られても返ってそれが刺激になる子もいる。大人の都合で育てられた子どもは、その付けがいつか戻ってくる。親が周りの目を気にしすぎて、情報がたくさん入ってくるから整理がつかず、迷っているうちに子どもが育っていくという悪循環になっている。立場が違う人たちと繰り返して話をしていくことも大事だと思う。

**【市】**

・何年か前に小学校にあがる段階で相談を受けたことがある。普通学級と支援学級とどちらに通わせた方がいいかという内容であった。あまり無理しなくて、その子どもに合わせた方がいいのではないかと話した。その後、どう成長していったか。その回答で良かったのかどうか今でも思い返す。

**【参加者】**

・先日、中学生の保護者から相談を受けた。落ち着きがない子で、「発達障害の検査を受けてください」と先生から言われたがどうしたらいいか。内申書に響くのではないかとこののを気にされていた。子どもの特性を受け入れるためにも診断を勧めた。やはり、親もつらい。親も含めて理解するための時間が必要。この地域で温かく包んでいくためにはどうしたらいいかということを考えている。

・子どもに、よかれと思って言ったことが、後で良かったのかと悩む。言った本人も後でハラハラしている。言ったことに対して責任があるから不安になる。私の考えは、立場の弱い人に支援が必要だと思っている。子どもにもプライドがあり、自分のことを考えて言ってくれたことなのかどうかだと思ふ。

・発達障害自体は恥ずかしいとは思っていない。普通と同じところが少なく、少し違う

ところが個性だと思う。成功している人というのは、うまい具合にそこを認めて、能力を伸ばしていった人や自己肯定感の強い人だと思う。親も理解し伸ばしていくことが必要。発達障害という言い方もどうなのか。認識を変えていった方がいいと思う。

#### 【市】

・気になる家庭に対してどういった支援ができるのか。母子保健推進委員の取り組みで、初産の母親を対象に仲間づくりなどの活動をしてもらっている。その中で、気になる家庭がどれくらいあるか集計してみると約 10%。子どもだけでなく保護者、家庭環境などいろいろな気になることがあると思うが、それが、それぞれの抱えている課題だと思っている。

#### 親育てについて

##### 【参加者】

・保育士をしているが、就学前の健診があり、4歳児健診のときは保護者にアンケートをとられている。その中に家庭の悩みや協調性などの項目がある。それが結果として出たときに、保護者にどうつなげていいのか。保健師と相談しながら、家庭の状況や食事面で負担があるところなど手助けをしてあげたいが、話をすると一歩引かれてしまい、なかなか進めない。その結果をうまく活用できればと思う。また、研修や講演会を開いても、保護者に参加してもらえない。参加してもらえれば、もっと良くなる。健診には必ず参加するので、その機会に組み込んでもらえれば参加が可能になるのではないかと思う。

・以前は教育委員会でも各地域で家庭教育講座という親が親になるための講座があった。いじめなどの映画を見てみんなで話し合うなどの親世代の取り組みがあっていた。今はどの地区でもなくなってきた。性の話も心と体の勉強であり、子育ての一つ。他の市でも、子育て包括支援センターを作ろうとしているところがあるが、人材が集まらない。保健師が減っているところは、母子に特化した取り組みができていない。以前、加津佐町は4人いて全国でもめずらしく、当時はモデル地区だった。そういう保健師さんの働きで、今、性教育などをやっている。プロとしてみんなに誇れるような専門の保健師さんが必要。今の保健師さんたちはとても頑張っていると思う。

・1歳半とか乳幼児健診のときに実際、専門の人が話をされている。3歳児健診のときは、生活リズムや食事の話などいろんな話をされているが、子どもが泣いたり、ぐずったりするとゆっくり聞けない。昔は子ども会単位で教室を開いていた。保育園で子どもを預かって、その間に保護者へ話をするという取り組みに支援があればと思う。1箇所での開催だとなかなか足が向かないので、各地域で開催されると参加しやすいのではないかと思う。

・親が保育士の話を聞くためには信頼構築が一番なので、保育園で懇談会をして交流を図っている。そうすると「お菓子は控えた方がいい」とか「テレビの見過ぎに注意してください」などに対して、極力努力をしようという姿が見られる。メディアもテレビもだめなのは親も分かっているがうまくいかない。講演会や懇談会を開いても、来てほしいと思う保護者は来てくれないので、保育園で子どもたちの昼寝の時間などに、別の部屋で話を聞

いてもらったりしたら、ゆっくり話が聞けるのではないかと思っている。一生懸命やっている姿勢を保育園側から見せると保護者も頑張ろうと思ってくれると思う。

#### 【市】

・保育園の先生と保護者の信頼関係が一番大事。それがないとお互いに話ができない。市内 32 施設の幼稚園・保育所があるが、園によっては、入園式の時、初めて入園する保護者だけではなく、すべての在園児の保護者を招いて講座などを開いているところもある。出席率はものすごく高い。そういう機会を利用して、食やメディアの話などを行っている。各保護者に話を届ける場としては保育所がいいのではないかと考えている。いかに多くの人が集まる場を作るか、保護者の学びの場をしっかりと作っていかないといけない。保育士の質の向上と親への教育も必要になってくる。市の栄養士なども依頼があれば出向いて行っているが、そういう場がない。また、地区での開催については、子ども会活動もできていないところもたくさんあり、その状況の中で、他に学びの場を作るといのはなかなか厳しい面もある。

#### 【参加者】

・保育所の入園時や学校の入学説明会時に講話をしている。1回ではなく2回、話をできる機会があればいいと思う。それとこれからはスポーツ関係、例えばクラブの集まりのときに時間を作ってもらえれば、思春期教育とか子どもの体づくりに関して、保護者に話を聞いてもらうことができる。親育てをどこでするかは大きな課題だと思う。

・おばあちゃんたちが親を追い越して、世話を焼きすぎているような雰囲気を感じる時がある。抱き癖がつくので抱いたらだめとかいまだにあっている。たくさん抱いた子ほど自立する。おじいちゃん、おばあちゃんにも育ててもらわないといけない。

・ママたちはテレビとかがだめだと分かっているが、おじいちゃんやおばあちゃんたちが環境を与えている。でもそれを言えない状況もある。

・他地域から嫁いできたが、嫁の立場だと講演会などに参加しにくい。それと自分が講演とかで話を聞いて、スマホとかを子どもに使わせるのは悪いというのを分かっているが、夫や祖父母の協力がなくてできない。お母さんたちは参加して勉強していると思うが、それ以外の周りの大人がそこから乖離している気がする。

・お母さんは一生懸命に子育てをしている。今の時代は夫婦共働きが多いが、いまだに男尊女卑の考えが根底にあるので、共に子育てをしていくために、男性に対しての教育も必要だと思う。

・工作上、基本的に妻に子育てを任せている。子育ては家庭でしないといけないと思うが、保育園に任せっきりになっている。女性はいろんな面で地域とコミュニケーションをとったり子育てをしたりして、すごく忙しいというのは分かっている。夫婦や家庭の環境を良くするために講演会とかあっても、なかなか行かない。講演会にも何か刺激があるもの、楽しい、おもしろいなどの内容があると参加するのではないか。

・募集して参加者が少ないのであれば、ある程度強制的に参加してもらう取り組みも必要

かなと思う。保育園の行事に組み込んで必ず保護者は参加してもらうようにすれば、みんなが集まって話を聞けたりするのではないか。私は子どもが3人いて、兄弟で少し違うなと思って発達障害の健診を受けた。結果的に違ったが、別の病気が見つかって治療するようになっている。検査を受けるきっかけになったのも、たった一言、アンケートに書いたことで拾い上げてもらって、市の方から健診の勧めがあった。そういうこともあるので、お母さんが自ら、どんな小さなことでも伝えることができる環境が大事だと思う。

#### 「ことばの相談」について

##### 【参加者】

・健診で別の病気が見つかったという例は結構あるみたいで、しゃべりにくいとか発音とか吃音とかから、耳の聞こえが悪かったということを見たりすることがある。その段階だが、少し言葉が気になるという時点で、市の方でも相談の場があるが、予約が結構先までうまっている。医療センターとなると控えてしまうところがあるが、市の行っている「ことばの相談」とかには行ってみようかなと思う人が結構いるが、予約がたくさんで半年先になってしまう場合もある。言葉とかは、少しでも早く対応した方がいいので、そこを改善していただければと思う。

##### 【市】

・言語聴覚士さんとの調整に時間がかかっている状況である。

##### 【参加者】

・3歳くらいの時に言葉の様子を見るが、言葉がちょっと遅いなという子どもがいても、健診では様子を見ましようとなる。そういう子どもは、就学前の4歳健診で結局、言葉の教室に通うことになる。3歳の健診のときに、こういうところには注意してくださいというようなアドバイスなどはあっているのか。

・あっている。お母さんには伝えようとするが、お母さんたちはそういうふうに言われるのが嫌なので、「もう時間がないので」ということで話を聞かずに帰られる。その後、保育園には「どうもないと言われました」という報告をされる。そうすると、話がつながらなくなる。現場では、「言葉が気になりませんか」という投げかけをするが、「いえ別に」というふうに言われると、こちら側としても強く言うことができない。気になる場所があったら、こういう方法があるとか、市で「ことばの相談」もあるなどの情報を伝えている。

・「言葉が少し弱いですね。様子を見ましよう」と言われた保護者がいたが、自分の子どもがそうあってほしくないという思いがある。例えば、生活のなかでストローを使うとか食べ物を固めにしてくださいとかいうポイントのアドバイスなどもあるのか。

・結構いろんなことを指導されている。私が健診に関わって、市の体制はすごいなと思うくらい、あらゆることを伝えている。今のお母さんたちはうらやましいと思うくらいに献身的に話をされている。

・お母さんたちが聞く耳をもたないというのは、お母さんたちもグレーゾーンの人がいる。

文字で書く、絵で描くというのを話と一緒に目で見せて伝えないと、コミュニケーションがとれない人がいる。書いて示してあげるなど、指導にも工夫が必要。

- ・虫歯の子が多い。噛み与えをしたりしている家庭があるので、そういうところを注意してほしい。歯科健診はあるが、そういう教育にもう少し力を入れてほしい。
- ・お母さんたちは健診に必ず来る。そこでいろいろな話を聞かせてもらうが、子どもが昼寝の時間に健診があるので、落ち着かない。できれば1歳半と3歳児健診は、午前中にしてもらった方がいい。
- ・食後の一番眠たいときに健診があっている。

#### **連携した取り組みについて**

・結果的にうまくいったケースだが、集団の中でちょっと違うという子がいたので保護者といろんな話をしてきた。やっぱり保護者との信頼関係がないとなかなか言えないこともある。こうしたらどうですかという話をすると、自分の親もこうだったからということだったので、個性を大切にされる家庭なのかなと見守っていた。結局は3歳児健診での保健師さんからの指導で、医療センターに行くなどしているケースもある。本当に保健師さんの力はすごいなと感じた。

子育てにお父さんの協力があるところは結構多い。保育園の送り迎えでもお父さんが来られるところがすごく多い。だから、お父さんに向かっての発信もいいのではないかと思う。

・健診で気になる子どもは、お遊びにつなげて、お遊びの中で遊びながらここが弱いのではないかというのを少しずつ伝える。保育園との連携は密にしておかないと発見が遅れたりする。

・自分の子どもには無条件で愛情を持っている。こちらが、よかれと思って言ったことが、その子の人生を否定されたと感じる人がいる。どうやって伝えるか、誰が伝えるかを考えながら進めていくことが大事。子どもはいろんなことに興味を持つので、あれはだめ、これはだめというのではなく、失敗を繰り返して成長していく中で正しい判断ができる人間になっていくので、見守っていくことも大事である。

・親育てという話ですが、保護者のグレーゾーンの場合、手順としてどういう段階を踏めばいいのか、保育士として保護者への対応が難しい。保護者次第で子どもの成長が大きく変わる。

#### **【市】**

・それこそ連携だと思う。遠慮なく相談していただきたい。その家庭の状況によって子どもに対してどんな影響があるのかで、いろんな連携の仕方も出てくると思う。

#### **【参加者】**

・子育て支援センターでもお母さんたちに集まってもらうために、いろいろ取り組んでみたがなかなか集まらない。夜に開催してみたり、おもちゃ遊びを企画してみたりしたが、

それでも集まらないという状況がある。今日の話はすごく参考になった。ぜひ子育て支援センターも利用していただけるようお願いしたい。

【市】

・お母さんたちの中には、子育て支援センターの魅力ある事業を、はしごされている人もいます。子育て支援センターの方で工夫して呼び込むような手立てをされていると思う。利用される人にいろんなアイデアをもらって、子育て中のお母さんたちが来たくするような行事もできるのではないかと思う。

・今日はいろいろな意見を聞かせていただいた。改めてそれぞれの立場からの話を、市の行政に生かしていかなければと思いを新たにしました。しっかり対応していきたいと思う。これからもご意見をお寄せいただければ大変ありがたい。